

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

今年度も実施された全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力・学習状況や生活状況を把握・分析し、前年度までの結果と比較するなどして、これまでの取組の成果を検証するとともに、課題の分析から改善への今後の取組につないでいます。同時に教育施策の改善を図るとともに、児童・生徒への指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。三宅町教育委員会は、本年度4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を公表し、このことで保護者や町民のみなさまの教育への関心をさらに高めていただく機会となることを願っています。将来にはばたく地域の子どもたちの健全な育成には、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。今後とも引き続きご理解とご支援をいただきますようお願いします。なお、本調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一侧面であるということについて申し添えますので、ご留意願います。

令和7年10月 三宅町教育委員会

1. 調査の概要

- (1) 実施日 令和7年4月17日（木）
(2) 調査対象 三宅町立三宅小学校6年生（41人）※38人参加
(3) 調査内容 教科に関する調査：国語・算数・理科（紙媒体）※理科は3年に1度実施
質問調査：学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査（Webシステム）

2. 調査結果の概要

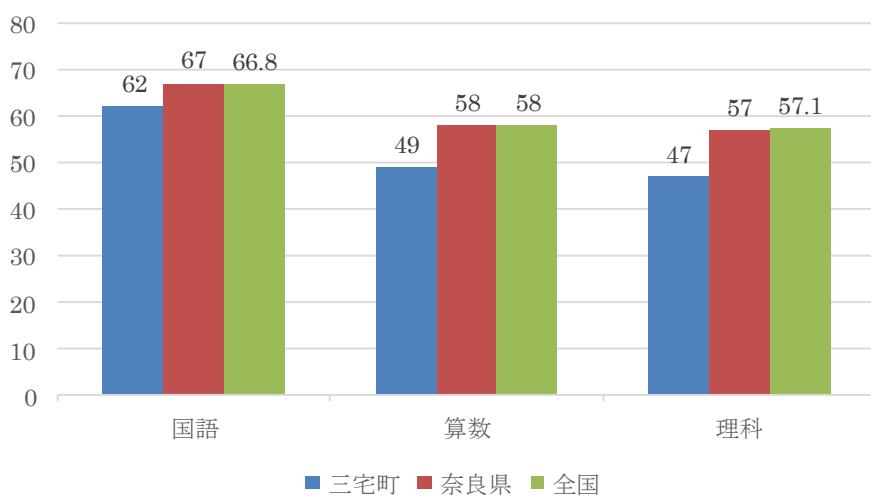
（1）各教科の平均正答率

教科に関する調査における平均正答率は、国語で県平均を5ポイント、全国平均を4.8ポイント下回り、算数では県平均を9ポイント、全国平均を9ポイント、それぞれ下回る結果となっている。3年に一度実施される理科では県平均を10ポイント、全国平均を10.1ポイント、それぞれ下回る結果となった。その中で、調査問題が違うので一概に比較はできないが、国語において昨年度より全国平均との差はやや改善された。（昨年度の差は10.7ポイント）回答3問以下がなくなり、回答12問以上が増加している。算数では全国平均との差が昨年の9.4から9になった。

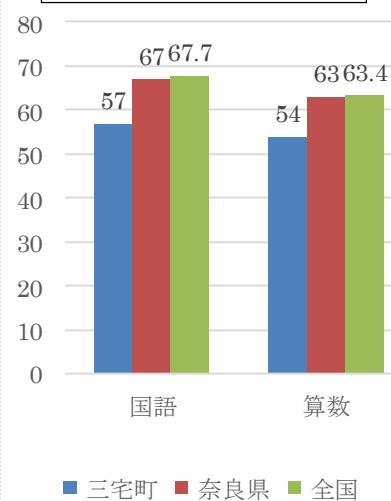
令和7年度各教科平均正答率

平均正答率	国語	算数	理科
三宅町	62	49	47
奈良県	67	58	57
全国	66.8	58.0	57.1

令和7年度各教科の平均正答率



令和6年度平均正答率

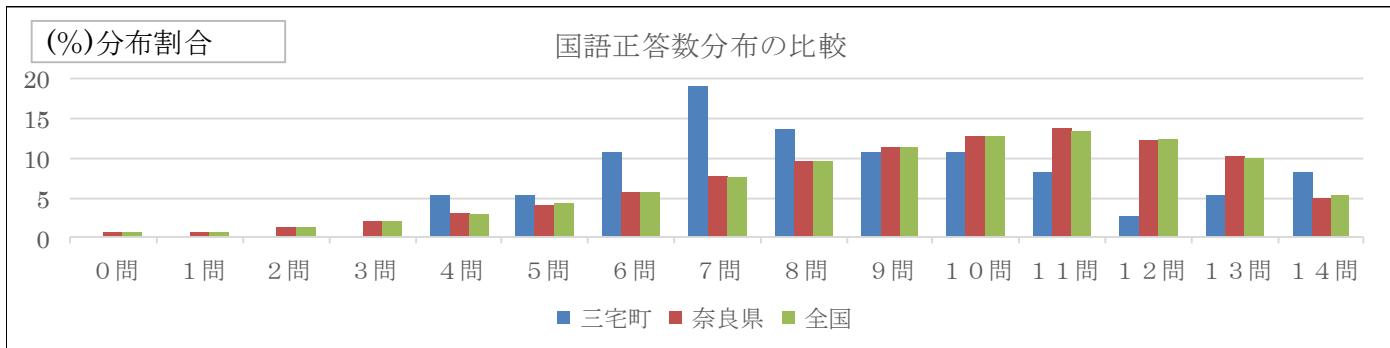


(2) 各教科の状況

1) 国語科

○正答数分布をみると、前述のとおり正答数0問から3問は0%であるが、高得点層（11問以上正答）の割合が、全国・奈良県とも41%であるのに対し、三宅町は24.3%にとどまり大きな差がある。

また、高得点層の割合が少ないと併せて、7問正解が分布割合のピークで18.9%を占めていて、奈良県、全国と比較して2倍以上あり、14問中7問という半分以下の正答率の割合が多いことがうかがえる。これらから中位層から上位層にかけて、全国学力学習状況調査で求められている学力の、伸び悩みが課題であるといえる。



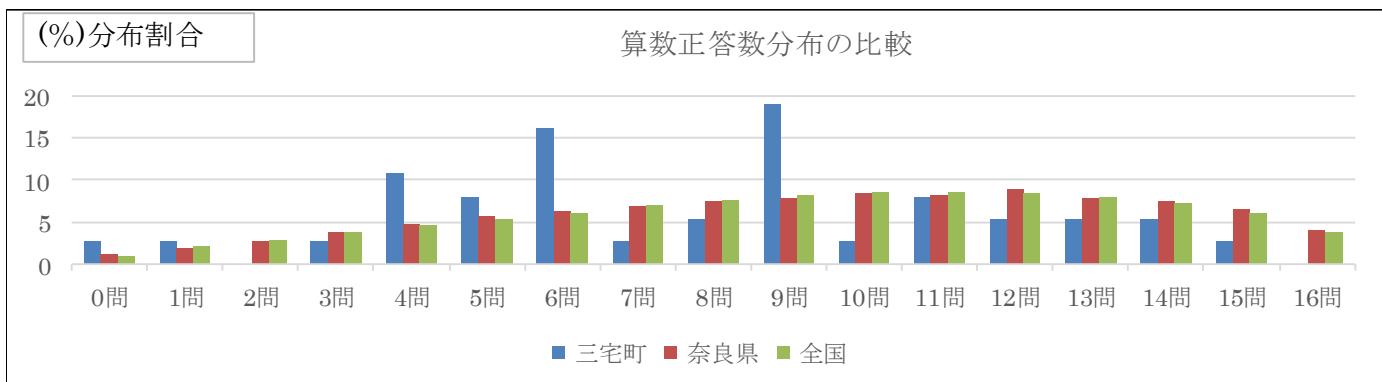
正答数別分布割合(%)

正答数	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問	13問	14問
三宅町	0	0	0	0	5.4	5.4	10.8	18.9	13.5	10.8	10.8	8.1	2.7	5.4	8.1
奈良県	0.7	0.6	1.2	2	3.2	4.1	5.7	7.7	9.5	11.4	12.7	13.8	12.2	10.1	4.9
全国	0.6	0.7	1.3	2.1	3	4.3	5.8	7.6	9.6	11.3	12.7	13.3	12.4	9.9	5.4

全国平均と比べ大きく回答率が低い問題は記述式問題で、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題（正答率：三宅町27%、全国61.4%、差34.4P）などに課題がある。また、「話すこと・聞くこと」の領域では、コミュニケーションの目的を明確にし、情報を整理したり、話し手の意図を正確に捉えたり、自分の考えを深めたりする力に課題があり、自分が聞こうとする意図に応じ話の内容を捉える問題では、（正答率：三宅町35.1%、全国72.0%、差36.9P）などに課題がある。

○記述式の問題を解く力をつけるため、読解力・表現力を高める必要があり、目的や意図に応じた記述練習に力を入れたい。資料の内容をもとに「短くまとめる」練習と「詳しく説明する」練習、決められた文字数で表現する練習に取り組むなど、表現の意図に応じて、要点を絞りながら論理的に記述・表現できる力を育みたい。

2) 算数科



正答数別分布割合(%)

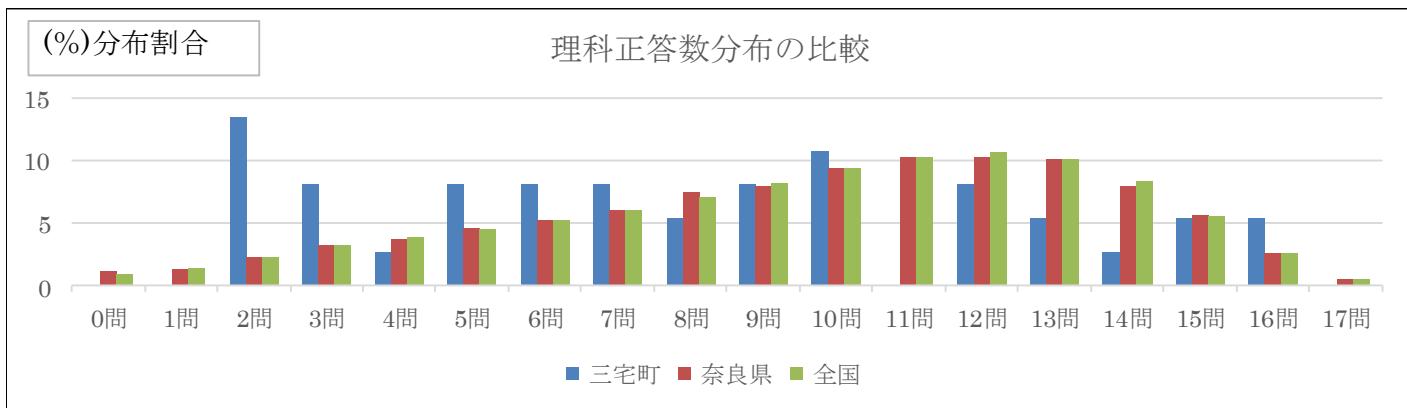
正答数	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問	13問	14問	15問	16問
三宅町	2.7	2.7	0	2.7	10.8	8.1	16.2	2.7	5.4	18.9	2.7	8.1	5.4	5.4	5.4	2.7	0
奈良県	1.3	2	2.8	3.9	4.8	5.7	6.3	6.9	7.4	7.9	8.3	8.2	8.9	7.8	7.4	6.5	4.1
全国	1.1	2.1	3	3.9	4.6	5.4	6.2	7	7.7	8.2	8.6	8.6	8.4	8	7.3	6.2	3.8

三宅町では12問以上正答している高得点層の割合は18.9%で、奈良県34.7%、全国33.7%と大きな差がある。三宅町では9問正答の割合が18.9%、6問正答の割合が16.2%、4問正答の割合が10.8%あり、奈良県・全国の2倍以上あり突出している。高得点層が薄く中から低位層が多い。また全問正解はいなくて、0問正解は奈良県・全国の2倍以上ある。算数の学力が全体的に低いことがみてとれる。特に全国平均と比べ回答率が低いのは、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題（正答率：三宅59.5%、全国78.7%、差14.7P）や、図形の面積を応用的に考察して求め、記述して説明する問題（正答率：三宅18.9%、全国37.0%、差18.1P）、そして、数の概念について特に小数や分数の計算や、概念についての説明などの各問いで、全国と15ポイント前後の開きがある。

○対策として、「なぜそうなるのか」を言葉や数で説明する活動を強化し、日常の学習指導において解答に至るまでの思考過程や判断の理由を式や図を用いて言葉で具体的に説明する機会を増やす必要がある。また、弱点が明らかとなった小数や分数の概念や、小数や分数を計算する力を丁寧に指導していくことなどが求められている。

3) 理科

○三宅町の平均正答率は47.0%で、奈良県・全国より10ポイント以上低い結果になった。特に13問以上正答の高得点層が18.9%で全国の27.1%と比較してかなり低い。そして低得点層（正答3問以下）が21.6%で全国の8.0%と比較して2.5倍以上あり、低い得点層が非常に多い。（特に17問中2問正解が13.5%と突出している）このように理科の学力が全体的に低く、特に理科の低学力層が厚いという現実がみえている。ここから理科の要となる実験観察などの自然の事物に直接に関わる機会が少ないとことや、文章や図の読解力にも課題が考えられる。



正答数	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問	13問	14問	15問	16問	17問
三宅町	0	0	13.5	8.1	2.7	8.1	8.1	8.1	5.4	8.1	10.8	0	8.1	5.4	2.7	5.4	5.4	0
奈良県	1.2	1.3	2.4	3.2	3.8	4.7	5.3	6	7.4	8	9.3	10.2	10.3	10.1	8	5.7	2.6	0.5
全国	0.9	1.5	2.4	3.2	3.9	4.5	5.3	6.1	7.1	8.2	9.3	10.2	10.6	10.1	8.3	5.5	2.6	0.6

全国平均と比べ大きく回答率が低い問題は、実験観察の結果を具体的な数値や事実で正確に表現することなどで、電流がつくる磁界について電磁石の強さは巻き数によって変わるという経験と知識を問う問題で（正答率：三宅45.9%、全国78.0%、差32.1P）や、ヘチマの花のつくりや受粉の知識を問う問題で（正答率：三宅43.25%、全国70.7%、差27.5P）などとなった。今後はより一層観察や実験を自分事として行い、得られた結果を言葉で説明したり、図に整理したりする等、単なる記憶だけではなく、概念的に整理し、生きて働く知識として定着させるようにしたい。そこで実験を通じた学びをより多く取り入れ、「なぜなのか」という科学的な根拠を明確にしながら、思考力・判断力・表現力を育むようにしたい。

●下記結果から教科に対する苦手意識、理解度の低さがみられ、さらに授業改善・基礎学力の向上が求められる。

児童質問調査で最も肯定的解答の割合	国語			算数			理科		
	三宅町	奈良県	全国	三宅町	奈良県	全国	三宅町	奈良県	全国
得意	13.2%	21.3%	21.3%	21.1%	30.8%	31.2%	23.7%	39.1%	40.9%
好き	21.1%	23.6%	24.1%	18.4%	32.2%	33.7%	36.8%	49.2%	61.7%
授業内容がよくわかる	18.4%	36.8%	36.9%	18.4%	41.8%	41.7%	34.2%	60.1%	62.4%

3. 児童質問紙調査から (抜粋)

(1) 日常生活

(4択の内、肯定的な回答の割合 [%])

質問事項	三宅町	奈良県	全国
朝食を毎日食べている	86.8	92.5	93.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	81.6	79.2	81.9
毎日、同じくらいの時刻に起きている	86.8	90.1	91.0
普段(月～金) 1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(PC・スマートフォン等のゲーム・携帯式のゲームを含む)をするか→【3時間以上する】の割合	去年 53.5	去年 31.8	去年 30.3
平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(塾等含) *1時間未満・全くしないの割合	76.3	45.9	46.0

(2) 自己肯定感・達成感・挑戦心・規範意識等

質問事項	三宅町	奈良県	全国
自分には、よいところがあると思う	89.5	87.0	86.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれている	97.4	93.9	92.2
将来の夢や目標を持っている	81.6	82.8	83.1
困りごとや不安がある時に、先生や大人に相談できる	71.1	71.5	70.6
人が困っているときは、進んで助けている	97.4	93.7	93.7
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	97.3	97.4	97.2
人の役に立つ人間になりたいと思う	92.1	96.8	96.4
学校に行くのは楽しい	86.8	86.0	86.5

「将来の夢や目標を持っている」の割合は向上し(昨年72.1%)、全国・奈良と並ぶようになった。自尊感情を高める取組をすすめ、総合的な学習の時間などで地域社会等を中心に関わりを増やし、出会いを創ってきたこと等の成果があらわれている。今後も学びに向かう力や人間性をより一層育てる教育をすすめていきたい。

(3) 学習に対する意欲・関心等

質問事項	三宅町	奈良県	全国
国語の勉強は好き	63.2	56.3	58.3
国語の勉強は得意だ	60.6	58.9	61.4
国語の授業の内容はよく分かる	76.3	82.2	82.8
国語の授業で学習したことは、将来、役に立つ	86.8	90.2	90.4
算数の勉強は好き	36.8	56.1	57.9
算数の勉強は得意だ	44.8	58.8	60.3
算数の授業の内容はよく分かる	65.8	78.2	78.3
算数の授業で学習したことは、将来、役に立つ	86.8	91.7	91.6
理科の勉強は好き	71.0	77.0	80.1
理科の勉強は得意だ	73.7	75.5	78.4
理科の授業の内容はよく分かる	73.7	87.1	88.9
理科の授業で学習したことは、将来、役に立つ	73.7	77.5	79.9

(4択の内、肯定的な回答〔当てはまる・どちらかといえば当てはまる〕の割合 [%])

・朝食を毎日食べている割合が減少。基本的な生活習慣が確立されていない児童が多く、加算集計からも学力との相関が大きい。学習への集中力や意欲に影響がある。

・毎年あったゲームやスマートフォンを何時間するかの質問はなくなったが家庭学習が1時間未満の割合が増加。全くしないも8%いることから、ゲームやスマートフォン漬けの実態が予想でき学力への影響が懸念。

・「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」とした児童が全国・奈良を上回った。先生が児童のよい点を認め伝えることで児童の自己肯定感を育んでいる結果があらわれた。

・「学校に行くのは楽しい」と感じる児童が年々増加し全国・奈良を上回った。今後も学校が楽しいと思える取組を継続していきたい。

・「国語の勉強が好き」の割合は増えたが「よくわかる」の割合は減少した。主体的・対話的に活動したりICTの活用もひろがり「好き」が増えたが、読むこと・書くこと等の国語の力を基礎から築く、わかる取組を求めたい。

・「算数の勉強が好き」「よくわかる」の割合が大きく減少した。基礎的な計算や分数・小数はもとより、算数の力をつけるかかる授業をめざして授業改善をしたい。

・「理科の勉強が好き」や「よくわかる」の割合は全国より大きく低い。実験観察などの体験的活動により力を入れ、興味関心を高め、楽しく学べる授業を目指したい。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の観点からの学習状況から

質問事項	三宅町	奈良県	全国
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	65.8	68.5	68.6
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	86.8	78.1	80.3
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめた活動を行っていた	68.4	72.4	77.8
これまでの授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	81.6	81.5	83.4
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができていた	65.7	83.9	84.9

課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた項目が昨年度より大きく伸び、全国平均も上回った。ICT機器の活用や授業スタイル改善の効果が現れた。一方、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方へ気付いた項目が低い結果となった。今後さらに対話的な活動を推進し他者参照から自分の考えを深める取組をしたい

(5) ICT機器の活用状況・効果

質問事項	三宅町	奈良県	全国
5年生までに受けた授業でICT機器を週に3日以上使用	81.6	63.9	71.7
自分がICT機器で文章を作成することができる	92.1	79.5	81.8
自分がインターネットを使い情報を収集することができる	89.5	88.7	89.8
自分がICT機器で情報を整理（図・表・グラフ・思考ツールなどを使いまとめる）ことができる	84.2	64.2	69.3

児童自身のPC活用が進み電子黒板等も普段使いが進んだ結果が現れている。先生方も研修に力を入れてきた結果ICT機器の活用に関する項目が大幅に伸び、全国平均以上にICT機器の効力による成果が現れている。

4. 今後の取り組み

総括を踏まえ今後の方向性について三宅町教育委員会は、次の三宅小学校が進める取組を支援します。

● 基本的な生活習慣の改善、健康意識の向上

- 保護者向けの啓発資料配布や個別面談を通じて、家庭での協力体制を構築する。

●自己学習習慣の定着、学習意欲の向上

- 短時間でも効果的に、児童が取り組みやすく、毎日続けられるような学習内容を工夫する。
- 児童が自ら疑問をもち、予想を立て、結果から考察する一連の探究的な学習活動を重視する。
- 各教科の学習内容が将来や実生活にどのように役立つかを示す具体例を提示し、学習の意識や目的を明確にすることで、学習意欲の向上を図る。

● 読書習慣の促進

- 学級文庫の設置、読書イベント、読書週間の設定など、学校全体で読書を奨励する機会を増やす。
- ニュース記事を題材にした授業や、新聞を使った調べ学習を取り入れる。

● 主要教科の基礎学力向上、論理的思考力・表現力の育成

- 基礎的な内容の反復学習を徹底する。
- ペア学習やグループワークを通じて、自分の思考プロセスを言語化する機会を増やす。
- どの教科でも自分の考えや思考の過程を言葉や数、図で記述する練習を日常的に取り入れる。
- 体験活動を増やし、探究心を刺激する。

● 個別最適な学びの推進

- 個別指導や少人数指導、習熟度別学習を導入し、一人一人の理解度に応じた丁寧な指導を行う。
- ICT機器の積極的な活用頻度の高さを生かし、個々の児童の理解度や進度に応じた教材（AIドリルの活用動画コンテンツなど）を提供し、自分のペースで学習を進められる環境を整備する。

●ICT活用能力の深化、協働学習の促進

- ・ICT機器は単なるツールではなく、自分の考えを整理・表現したり、友達と意見を共有・比較したり、協力して学習を進めたりするための有効な手段として活用するということについて、具体的に指導する。
- ・文字入力だけではなく、図表・グラフの作成、思考ツールを使った情報整理、プレゼンテーション資料作成の機会を意図的に授業に取り入れ、より高度な活用スキルを育成する。
- ・共同編集ツールなどを活用した協働学習を促進し、多様な考えを共有・比較・統合する力を養う。
- ・家庭学習や長期休業中の補充学習にも積極的にICTを取り入れる。

●自律的な規範意識の醸成

- ・「いじめはいけない」と教え込むのではなく、「なぜいけないのか」を考えさせるなど、自分のこととして捉えられるように働きかける。

●相談しやすい環境づくり

- ・担任だけでなく、他の教職員、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、多様な相談窓口があることを周知する。
- ・定期的な面談やアンケートを通じて、児童の心の状態を把握する。
- ・日頃から児童との信頼関係を築き、「いつでも相談していい」というメッセージを伝え続ける。

教科指導に関する三宅小学校による改善対策の具体

【国語】

●目的や意図に応じた記述練習

- ・資料の内容をもとに「短くまとめる」練習と「詳しく説明する」練習、求められる文字数を意識して記述する活動を日常的に取り入れ、表現の意図に応じて記述量を調整するとともに、要点を絞りながら必要な情報を過不足なく表現する力を養う。

●論理的な文章構成の指導

- ・書く内容の中心を明確にし、文章を構成する指導を行う。図表などを用いて、自分の考えが読み手に伝わるように書き表し方を工夫する指導も重要。

●目的意識を持った言語活動の導入

- ・インタビューや話し合いの活動を授業に取り入れ、「何のために話すのか、聞くのか」という目的意識を児童に持たせるように指導する。

●意見の比較と自己の深化

- ・相手の考えと自分の考えを比較し、共通点や相違点を整理し自分の考えを深める対話的な学びを重視する。

●読む目的の明確化

- ・読む前に、「何を知りたいのか」という、読む目的を明確にすることの重要性を指導する。

●情報整理と再構成の練習

- ・複数の資料から必要な情報を取捨選択し、整理、再構成する活動を多く取り入れる。

【算数】

●「なぜそうなるのか」を言葉や数で説明する活動の強化

- ・日常の学習指導において、単に正解を導くだけではなく、解答に至るまでの思考過程や判断の理由を、式や言葉、図を用いて具体的に説明する機会を増やす。

●小数・分数の概念的理解の深化

- ・具体物（数ブロック、図など）や数直線を使って、視覚的に何度も確認する活動を取り入れる。

●データの活用における目的意識と論理的思考の育成

- ・様々な種類のグラフ（棒グラフ、帯グラフ、園グラフなど）について、それぞれの特徴、どのような目的で使うのが適切か、使い分けの理由などを子どもたち自身が説明する。

●日常生活と結びつけた問題解決力の育成

- ・日常の事象を題材とした問題で、「まず何を知る必要があるか」「次に何を計算するか」といった問題解決のステップを段階的に言語化させ、必要な情報を選び出す課程を明確にする。また、実測活動（はかり・定規・温度計など様々な計器の目盛りを正確に読み取る）を日頃から行い、目盛りを正確に捉える力を養う。

【理科】

●知識の概念的な理解を深める指導

- ・観察や実験を行った後に、得られた結果を言葉で説明したり、図に整理したりする活動をより重視し、単なる事実の記憶ではなく、知識を概念的に理解し、生きて働く知識として定着させる。そのために、視覚的な教材を活用し、児童が具体的なイメージを持てるような工夫、児童が自ら整理する機会を多く設けることなどを意図的に取り入れる。

●実体験を通じた学び

- ・電磁石が扇風機や電子レンジなどの身近な電化製品にどのように応用されているかを調べたり、実施に電磁石を作つてその強さの変化を体感したりするなど、知識を実生活と結びつけて、興味・関心を高める。

●科学的根拠に基づいた思考・判断の練習

- ・「なぜそうなるのか」という科学的な根拠を明確にしながら現象を予想し、既習の知識をもとに思考・判断する練習を重ねる。また、他教科の学習内容や時事的な話題などと関連付けて議論する習慣をつける。

●結果を論理的に表現する記述力の強化

- ・「自ら実験計画を構想し、表現する」「実験レポートの作成時に『結果』と『考察』を明確に分けて記述する」「実験後、立てた予想や仮設に対して、実施した方法が適切であったかを振り返り、改善点を検討する」といった活動ができるよう、授業を構築する。